

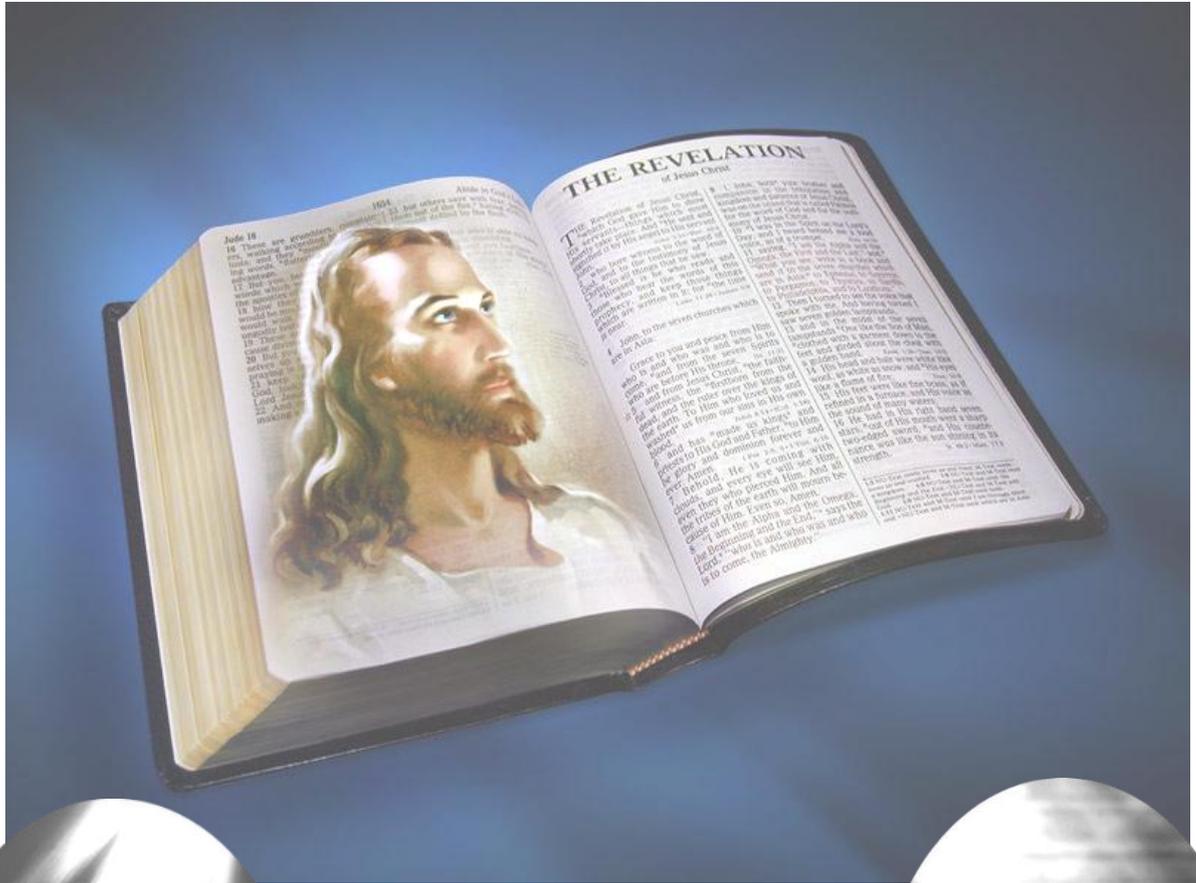


アンカー

33号

Anchor

2004年8月



おとずれの時を知る
 小さな光と大きな光の意味
 世界貿易センターの襲撃—
 その時歴史は動いた！
 イエズス会の狙い

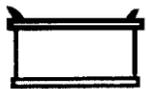


アンカーの目的

我々は次のことを信じてアンカーを出版している。

1. 我々SDAの働きと使命は三天使の使命である。(6T 384, 2SM 142)
2. 第三天使の使命は人々をキリスト再臨の栄光の前に立ち得る特別な備えをさせるものである。(9T 98, 大争闘下 140)
3. 第三天使の使命は人々の心を至聖所に向ける。そこにおいて信者は最後の、特別なあがないを受ける。(初代文集 414, 5, 7)
4. 我々は神のもくろまれたこの特別な祝福、特別な経験を拒み続けてきた。特に1888年以来。(RH 26, 1890年)
5. ダニエル書 8:14の聖句は再臨信仰の土台であり、み業の完成はこの聖句の正しい理解にかかっている。(生き残る人々 422, EV 221, 5T 575)
6. エレン・G・ホワイトは聖書の預言者と同様の靈感が与えられた預言者である。(ISM 36)
7. 最後の時代の嵐に押し流されないようにさせるアンカー(錨)は、三重の使命、聖所、安息日、人の性質、イエスの証(預言の霊)等である。(初代文集 417, 1T 300)
8. アンカーはリレーの最終走者の意味がある。この世代は福音の働きが信者の中に、外の世界に完成する最後の時代である。不信仰によって、150年も時が延ばされ、イエスの十字架の苦しみを増している。(大争闘下 182, 教育 328) 信仰による義認の体験によって、再臨を早めることをキリストは待っておられる。再臨とみ業完成をこれほど遅らせているのが我々神の民であるとするならば、我々の今日の、義務は何か、約束のものを受ける条件は何なのかを研究し、共に備えたいと思う。
9. セブンスデー・アドベンチストは最後の「残りの民」である。たとい教会がどんなに背教しようとも、激しい震いの経験をして、純潔な教会となり、永遠の神の目的がこの教会によって成就されると信じている。

贖罪の1、2、3



十字架



聖所



至聖所



再臨

最後のあがない=罪の除去

「天の聖所における、人類のためのキリストのとりなしは、キリストの十字架上の死と同様に、救いの計画にとって欠くことのできないものである。キリストは、ご自分の死によって開始された働きを、復活後、天において完成するために昇天されたのである」大争闘下 222。

おとずれの時を知る

神の民、イスラエルがついに滅びを刈り取ったのは、「おとずれの時」を知らなかったからである。

「おまえとその内にいる子らとを地に打ち倒し、城内の一つの石も他の石の上に残して置かない日が来るであろう。それは、おまえが神のおとずれの時を知らないでいたからである」ルカ 19:44。

神の民についてこう言われている：

「空のこうのとりの時を知り、山ばとと、つばめと、つるはその来る時を守る。しかしわが民は主のおきてを知らない」エレミヤ 8:7

渡り鳥は「その時を知る」とは、欽定訳では「appointed times 定められた時を知る」となっている。彼らがいつ、どの季節にはどこに行くか、その定められた時を知っている事実には驚かされる。それと対照して神の民は「その定められた時を知らない」とは言わずに「主のおきて」を知らないとなっている。欽定訳では「judgment=主のさばき」となっている。律法によってさばかれる時のことであろう。人間の永遠の運命が決定される時、それは裁きの時である。パウロは、さばきのために神は日を定めておいでになると言っている(使徒 17:31)。

セブンスデー・アドベンチストなら、裁きの時が1844年から始まっているのは周知の事である。しかし、よく知られていない事実は、生ける者の裁きの時についてである。大争闘下巻の224頁の引用文は、多くのSDAに正しく理解されていない。さばきの時が「生きている人々の番になる、その時は誰も知らない」と解している。そのために、ある人たちは、もう自分は裁かれているかもしれないとか、誰それは、あるいは世界総会はもう裁かれてしまっていると思っている。

さばきの時に永遠の運命が決定される。生ける者のさばきは、日曜休業令から始まる。そのことの証明は、「アドベンチストの教え—検証」や、アンカーにもすでに解説した。

アメリカ大統領、ブッシュのローマ・カトリック、ヨハネ・パウロ2世への接近についてセブンスデー・アドベンチストであるなら、誰も驚かないではいられないであろう。ユダヤ人の「おとずれの時」が突

然来たように、まもなく、今日の選民 SDA の運命が決定される時が迫っている。

「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない」アモス 3:7。

「キリストのみ言葉によって弟子たちに将来がはっきり示されていたように、われわれにも将来のことが預言の中にはっきり示されている。恩恵期間の終わりに関係のあるできごとと、悩みの時のために備える働きとが、はっきり示されている。しかし多くの人は、全然啓示を受けなかったかのように、これらの重要な真理を理解していない。サタンは、彼らに救いに至る知恵を与えるような感化をことごとく奪い去ろうとかがっているので、彼らは悩みの時に備えができていない」大争闘下 359。

イエスはご自分の時をよく知っておられた。イエスの生涯のステージを見てみよう：

1. わたしの時はまだきていない。

「そこでイエスは彼らに言われた、『わたしの時はまだきていない。しかし、あなたがたの時はいつも備わっている』」ヨハネ 7:6。

2. わたしの時は近づいた。

「市内にはいり、かねて話してある人の所に行っていなさい、『先生が、わたしの時が近づいた、あなたの家で弟子たちと一緒に過越を守ろうと、言っておられます』」マタイ 26:18。

3. わたしの時は来た。

「父よ、時がきました。あなたの子があなたの栄光をあらわすように、子の栄光をあらわして下さい」ヨハネ 17:1。

我々は日曜休業令—生ける者のさばきの日時を計算するには命じられていない。しかし、その時が近づいているのを知る出来事、しるしを知らされている。プロテスタント・アメリカのローマへの接近は、危険極まりないところまできている。それがしるしの一つである。本誌にそれを紹介した。

ますます綿密に預言の研究をしよう。ますます綿密に証の書を研究しよう。ただ読むだけではない。つまびらかに究めたいものである。

証の書と聖書の関係を明らかにする！ 誤用されてきた引用文！ 証の書は二級品か？

今日我々はいろいろな人によって、様々な方法を通して、エレン・ホワイトの書き物が聖書よりも劣った光として格下げされつつあるということに直面している。聖書が大きな光で、エレン・ホワイトの証の書は小さな光であると聞かされてきた。エレン・ホワイトの言われた「大きな光」「小さな光」という言葉が誤用されていないだろうか。一体それはどういう意味であろうか。「最終時代の危機のさなかに光を最も必要としている神の民からこの光をさえぎることがサタンの特別な目的である」5T667。「サタンの最後の欺瞞は、神のみ霊の証を影響のないものにすることである」1SM48。「私の働きは… 神の印を帯びているか、それとも敵の印を帯びているか。このことにおいて中途半端はない。証は神の霊から出たものである。さもなければ、悪魔からのものである」4T230。

元世界総会青年部長であったネルソン牧師は、今日の我が教会の現状を嘆いて忠実にテープを通してラオデキヤへのメッセージを伝えている。

直面する危機

「小さな光」と「大きな光」の意味

ローレンス・ネルソン（元世界総会青年部長）2000年1月1日

砂川 満 訳

時々刻々と最後の危機が近づいている！ 靈感の書は、「まもなく圧倒的な驚きとして世を襲うところの」事件、かつてなかったほどの悩みの時の到来を描写している。神はこの終わりの時の出来事を前もって知っておられる。神は、聖霊の特別な助けがなければ、サタンの大いなる力の前に我々は立つことができないことを知っておられる。サタンは近い将来、「小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもできないように」するであろう（黙示録 13:16, 17）。終わりの危機に備え、通過できるために、聖書と同じように、預言の霊が与えられていることを、我々ほどれほど感謝すべきであろうか。これが我々に勝利を確信させるものである！ み言葉によってのみ、神が忠実に条件を果たす者たちと共におられるという確信が与えられるのである。これらの靈感の言葉に、悩みの時を通過する時に守られるための条件が明確にされているのである。

聖書から学んでみよう。

「こうして、預言の言葉は、わたしたちにいっそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい。聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである」2ペテロ 1:19-21。

エレン・ホワイトは聖霊について次のように書いている：

「聖霊は、聖書にとって代わるために与えられたのではないし、また、そのようなものとして与えられるはずもないのである。なぜなら、神のみことばは、すべての教えとすべての経験を吟味する標準であると、はっきり聖書に述べられているからである。使徒ヨハネは言っている。『すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。多くの

にせ預言者が世に出てきているからである』(1ヨハネ4:1)。そしてイザヤは、『ただ律法と証とに求めよ。もし彼らの言うことがこの言葉に従っていないなら、それは彼らの内に光がないからである』と宣言している(イザヤ8:20 欽定訳) 大争闘序(4)。

預言の霊の書は、聖書のあらゆる試験にパスした！それは神の言葉に忠実であることが判明した。確かにエレン・ホワイトは、古代の預言者たちによって与えられた光を更に拡大し、彼らの言葉をさらに明瞭なものとし、我々の時代への特別な適用をほどこして、さらに理解しやすくしている。

主はご自分の使者を通して語られた：

「**聖霊が聖書と預言の霊の著者である**」セレクトブック・メッセージ 3-30。

「**聖書があなたのカウンセラーである。神が与えられた聖書と証を研究しなさい。なぜなら、それらは決して矛盾することはないのである**」3SM 32。

従って、聖書と預言の霊の両方の著者は聖霊であるのだから、その両方とも、その主たる目的とするところは男女を世の光であり、救い主である我々の救い主に導くことである！

「大きな光と小さな光」

わが教会の中でよく用いられる二つの引用文がある。しかし、しばしば文脈から離れて用いられている。これらの文章(引用文)は個人によってのみならず、教会の指導者達によってもしばしば曲解され、誤用されている！そこで、この研究では、これら二つの中の一つの引用文のその本当の意味を探ってみよう。二番目の引用文は第二部で研究することにする。

最初の文章はレビュー誌 1903年1月20日から採られたものである：

「**聖書にあまりにも注意が向けられていない。主は男女をより大きな光に導くために小さな光を与えられた**」。

すぐ投げかけられなければならない質問はこれである：小さな光とは何なのか？より大きな光とは何なのか？この点でサタンは主の僕の書物に対する信頼を破壊し始めたのである！

では、この誤解され易い表現の意味を理解する最善の方法は、その著者が言わんとしている事は何か

ということを著者自身に聞くことである。

エレン・ホワイトは、聖霊が彼女の思想に靈感を与えたのであるから、その意味するところも説明しているに違いない。故に、しばしば引用されるこの文の前後関係を、我々は読む必要がある。

エレン・ホワイトは他にも小さな光、大きな光という表現をいくつかしている。この問題を解決するために、他の引用文を見ることも助けになる。

初めの文は、預言の霊二巻の 83,84 頁にある。それはヨハネの働きについて説明していることを、念頭において頂きたい：

「**預言者ヨハネは、二つの時代を結ぶ輪であった。彼は続いてやってくる大きな光に対して小さな光であった。彼は、人々がキリストの働きを受け入れる準備をするために、伝統に対する信頼を捨てさせ、彼らの罪を思い出させ、悔い改めに導くのであった。神は預言者に、靈感によって彼の理解に照明を授けられた。そして彼は、幾世代も積み重ねられてきた偽りの教えを持つ正直なユダヤ人から、言い伝えと暗黒を取り除くのであった。**

しかし、キリストの奇跡を目撃し、その唇から天来の教えと慰めの言葉を受けた最も小さな弟子でさえ、バプテスマのヨハネよりもっと大きな特権にあずかった。イエスの教えと模範から発せられたもので、これほどはっきりと人類に輝いた光はこれまでになかったし、またこれからもないであろう。キリストとその働きは、影であり、型である犠牲の中にかすかに理解され、予表されてきたのであった。

預言者のうちで、ヨハネほど高い任務、または働きを授けられた者はなかった。しかし、彼は自分の働きの結果さえ見ることができなかった。彼は、キリストと共にいて、**天来の力が伴う大いなる光**を目撃する特権にあずかれなかった」。

天来の力が伴う**大いなる光**とは、誰のことだろうか？ **大いなる光**とは、キリストのことであることには疑いの余地がない。この文は、大いなる光はキリストであると明言している。小さい光は誰であるとエレン・ホワイトは言っているか？ **預言者ヨハネ**のことである！彼女は間違いの余地を与えないほど、これら二つの言葉を定義づけているのである！彼女の他の文章を見ても、彼女が一貫していることが分かる。

では、二番目の引用文のレビュー誌 1873 年 4 月 8 日の文を検討しよう。ここで、エレン・ホワイトは次のように言っている：

「ヨハネはこの地上に神が送られた最も偉大な預言者の一人である。…キリストは、バプテスマのヨハネより大いなる預言者はいない、彼は預言者以上の者であると言われた。」

この文脈でエレン・ホワイトは、「ヨハネは小さな光であり、大いなる光が後に続いて来るはずであった」と言っている。ヨハネに続いてくる大いなる光とは誰のことであろうか？ 誰もが、それはイエスであると答えるであろう！

次に、第三番目の引用文を各時代の希望第一巻の 274, 275 頁に見てみよう。

「預言者ヨハネは、二つの時代をつなぐ環^わであった。神の代表者として、彼は、キリスト教時代に対する律法と預言者の関係を示していた。彼は小さな光で、そのあとには大きな光がつづくのであった。ヨハネが彼の民に光を放つように、彼の心は聖霊に照されていた。しかしイエスの教えと模範から出ている光ほど墮落した人類を明るく照らす光は、これまでほかになかったし、またこれからもない。影としての犠牲制度に象徴されているキリストとその使命は、かすかにしか理解されていなかった。ヨハネでさえ、救い主を通して与えられる未来の永遠のいのちを十分に理解していなかった。

ヨハネが自分の使命に感じていたよろこびは別として、彼の一生は悲しみの一生であった。彼の声は荒野よりほかのところではめったにきかれなかった。彼は孤独な身分であった。彼は自分自身の動きの結果を見ることをゆるされなかった。キリストといっしょにいて、大きな光に伴う神の力のあらわれを見る特権は彼になかった。盲人が見えるようになり、病人がいやされ、死人がよみがえさせられるのを、彼は見なかった。彼は、キリストのすべてのことばを通して光が輝き、預言の約束が栄光に照されるのを目に見なかった。キリストの大いなるみわざを目に見、キリストのみことばを耳に聞いた最も小さい弟子でさえ、この意味において、バプテスマのヨハネよりも大きな特権があった。したがってヨハネよりも大きい者といわれているのである。」

この文によると、結論は一つしかない：ヨハネは小さい光であり旧約の律法と預言者と、大いなる光であられるキリストとの関係を示し、キリストはヨハネの後に来られることになっていた。

聖書の証

聖書はエレン・ホワイトの定義が正しいことを強めている！

ヨハネ 1:6-9：

「ここにひとりの人があつて、神からつかわされていた。その名をヨハネと言つた。この人はあかしのためにきた。光についてあかしをし、彼によってすべての人が信じるためである。彼は光ではなく、ただ、光についてあかしをするためにきたのである。すべての人を照すまことの光があつて、世にきた。」

ヨハネ 5:35,36 でイエスは言われた：

「ヨハネは燃えて輝くあかりであつた。あなたがたは、しばらくの間その光を喜び楽しもうとした。しかし、わたしには、ヨハネのあかしよりも、もっと力あるあかし(光)がある。」

ヨハネ 9:5 にも次のように書いてある：「わたしは、この世にいる間は、世の光である」と。キリスト以前にも、以後にも世に明るく輝く光がなかったとすれば、旧約聖書と新約聖書のすべての預言者が小さい光であることには疑いの余地がない！

四つの引用文において、エレン・ホワイトは旧約時代を小さい光と言っていて、新約時代を大いなる光と言っている。

「This Day With God (神と共なる今日) 246 頁から引用しよう：

「キリストの初臨から大いなる光と栄光の時代が到来した。しかし、より完全な輝く光が照りわたったからといって、小さい光を軽蔑しあざ笑うことはまことに罪深い忘恩である。

ユダヤ時代の祝福と栄光をさげすむ者は、福音の宣教による益を受ける準備ができていない」。

このように、エレン・ホワイトは彼女自身の定義から逸脱していないことを我々は見ることが出来る。キリストの初臨から大いなる光と栄光の時代に入ったとするなら、旧約の預言者たちは、ユダヤ時代に小さな光と栄光をもたらしたのであった。この時代に、キリストの出現によってもたらされる大いなる光に導く聖所の奉仕が確立されたのであった。

さて、これで、我々はレビュー誌 1903 年 1 月 20 日の引用文の意味を理解する用意ができたと思う。この引用文を用いて、我々の説教壇や書籍で、聖書

が大なる光で、エレン・ホワイトの書物は小さな光なのだと宣言されてきた。

具体的に人間がつけた見出しを挙げてみよう：セレクトッド・メッセージ3巻の30頁(1980年版)は次のようになっている。「小さな光である E. G. ホワイトの書物と聖書との関係」

この見出しのすぐ後にレビュー誌からの引用文がある。「彼らは聖書に心を留めなかった。そこで神は人々を大きな光へ導くために小さい光をお与えになった」レビュー誌 1903年1月20日。

文脈

あなたに質問したい。あなたはこの文の前後関係を読んだことがあるか？ この文を読むときに、レビュー誌の記事の目的に注意していただきたい。初めから終わりまで、彼女は自らの書物の販売を促進しているのである。誰に対してであろうか？世の人に対してである。なぜか？彼らを大きな光である救い主に導くためである！

この文脈を読むときに注意して頂きたい：

「わたしは、兄弟姉妹たちがキリストの実物教訓の配布に興味を持っていることに対して天の父に感謝する。この本の販売によって素晴らしいことがなされてきた。そして、それは継続されるべきである。しかし、わが民の努力はこの本一つに限られてはならない。人類のあけぼの、大争闘、各時代の希望のようなもっと大きな本が、どこでも配布されなければならない。これらの本は、全世界で伝えられなければならないこの時代の真理を包含している。何者も、これらの本の販売を妨げてはならない。

もしも、教会員がこれらの本に含まれている真理の重要性に目ざめていたなら、そしてわが民がこれらの本をまき散らす義務を感じていたなら、もっとこれらの大きな本が売っていたであろう。

ホワイト夫人がこれらの書物の創作者ではない。これらの書物には、神が彼女の働きの期間を通してお与えになった教えが含まれている。これらには神が世の人々にお与えになった尊い慰めの光が盛られている。それらの書物から、男女の心を救い主に導く光が輝かなければならない。主は、これらの本は全世界に散らされなければならないと仰せになった。これらには、受け入れる者に、命から命に至らせるかおりとなる真理が盛られている。それらは神のための沈黙の証人である。

過去において、それらは魂を悔い改めさせる神の手段であった。多くの者がそれらを熱心に読んで、キリストのあがないの効力と真理の力を見るように導かれた。主は、ご自分の民にたくさんの教えを教訓に教訓、教訓に教訓、規則に規則、規則に規則、ここにも少し、そこにも少しと送られた。聖書にあまり注意が払われていない。主は男女を大きな光に導くために小さな光を与えられたのである」CM(文書伝道)124。

エレン・ホワイトのある書物は、広く一般に配布されるように計画された。何故か？これらの書面から男女を救い主に導く光が輝き出なければならないからである。そう言って、彼女はすぐ後に同じ思想を表明している：

つまり、世の人々が聖書をないがしろにしたので、主は大きな光に導くという目的のために、小さな光を与えられたのだと。

エレン・ホワイトは、ご自分の書き物は、尊い靈感を受けたものだが、世の人を大きな光である救い主でありイエスに導くための小さな光として指している。もしも、この文が多くの方が信じているように、大きな光が聖書であるという意味であるとするなら、他のすべての個所で大きな光はキリストであると定義していることと調和しないのである。従って、これらの記事から、エレン・ホワイトは彼女の書物が聖書に対して劣ったものであると卑しめているのではないことを結論づけることができる。

セレクトッド・メッセージ3巻、30頁で言うように、聖霊が彼女の書物の著者であるなら、また、レビュー誌 1903年1月20日号にあるように、彼女の書き物の創作者は神であるなら、エレン・ホワイトの書物は第二級品であると教えているのは誰の仕業であろうか？それは預言の霊を効果のないものにしようとする我が教会内のサタンに使われているリベラル派(自由主義者)たちの仕業に他ならない。エレン・ホワイトは古代の預言者たちと同じように、同じ神の聖霊によって教えられたのである。もし預言者中、最も偉大なバプテスマのヨハネが小さい光であるなら、聖書の預言者たちはすべて小さな光であることは確かである。キリストだけが大きな光である。

自然からの例証

創造の物語に、小さい光と大きい光の差を理解する助けとなる興味深い例証がある。それは創世記 1:16 に見出される。「神は二つの大きな光を造り、大きい光に昼をつかさどらせ、小さい光に夜をつかさどらせ、また星を造られた。」

私はジョン・ジャニューク著「大争闘、その終焉のゲーム # 3 p23、24」の言葉に注意を促された。

彼は、この聖句の文脈に二つの質問が答えられていると言う。すなわち、①大きな光とは何か。答えは昼をつかさどる太陽である。太陽はそれ自体オリジナルの光を持って、光を放出しているので大きな光である。②夜をつかさどる小さな光とは何か。月である。月はそれ自体に光を持っているだろうか。答えはノーである。月ができることは、太陽の光を反射することだけである。

大きな光はそれ自体光を持っているが、小さな光はその光を反射するだけである。月を何千と集めても、決して大きな光になることはできない。大きな光、すなわち太陽自体が光なのである！

聖書の著者とエレン・ホワイトは、彼ら自身に光はないのだとジャニュークは結論づけている。月のように、彼らはただ**義の太陽であるイエス・キリスト**のオリジナルの光を反映するだけである。

霊的に考えると、キリストは義の太陽である。マラキ 4:2 に次のように書かれている：

「しかしわが名を恐れるあなたがたには、**義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている。**あなたがたは牛舎から出る子牛のように外に出て、とびはねる」。

イエス・キリストが義の太陽である。その翼に癒す力を備えていると言うのである。イエスは生命の光である。

各時代の希望 2 巻 250、251 頁に次のように描写されている：

「イエスは、また人々に語ってこう言われた、『わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう』(ヨハネ 8:12)。

イエスは、このことばを語られたとき、仮庵の祭の儀式に特に関係のある宮の庭におられた。この庭の中央には二つの高い台が立っていて、大きな

ランプがのっていた。タベのいけにえのあとで、全部のランプに火がともされ、エルサレムじゅうに光を放った。この儀式は、荒野のイスラエルをみちびいた光の柱を記念するものであり、またメシヤの来臨をさし示すものとみなされた。夕方になってランプがともされると、宮の庭は非常なよろこびと楽しみのもととなった。。。。。

エルサレムの照明を通して、民は、メシヤが来臨されてイスラエルに光を放たれるという彼らの望みを表明した。しかしイエスにとって、この光景はもっと深い意味があった。宮の輝くランプが彼らのまわりを照したように、霊的な光のみなもとであるキリストは、世の暗黒を照されるのである。それでもまだこの象徴は不完全であった。キリストがご自分の手で天におかれたあの大いなる光こそ、キリストの使命の栄光をもっと真実にあらわすものであった」。

同じ思想が「両親と教師と学生への勧告」54 頁に表わされている：

「天に上る太陽は、造られたすべてのものの生命であり光であるお方を表わしている。」

義の太陽を反射する

しかし、人類は世の救いのために果たさなければならない役割があることを覚えていなければならない。イエスは言われた：「あなたがたは世の光である」と。しかし、人類自身には光がない。人類は太陽でなく、月にたとえられている。人類はイエスの光を反映するだけである。

祝福の山 49、50 頁から引用しよう：

「人類はそれ自身のうちに光をもっていない。キリストから離れるならば、わたしたちは火がともっていない灯心のようであり、太陽に顔をそむけた月のようである。したがって暗い世界にただ一筋の光を与えることもできない。しかし、わたしたちが義の太陽に向かい、キリストと接触する時、神の臨在の輝きによって全心が燃やされるのである。

キリストの弟子は人々の間にある一つの光以上のものでなければならない。かれらは世の光である」。

月のように、すべての人類は、預言者であろうと、祭司であろうと、王であろうとみな小さな光である。しかし、彼らが顔をキリストに向けて、キリストとつ

ながるとき、世に対して神の光を反映することができるのである。

「神と共なる今日」93 頁から引用する：

「光の源であられるお方とつながり、この生きたつながりを通して世の光となることは、クリスチャンの特権である。生きとし生けるものにとって、太陽の光は光であり祝福となっているように、クリスチャンも、彼らの善行と快活さと勇気によって、世の光となるべきである。太陽の光が夜の陰を追いやり、谷間や丘にその輝きを注ぐように、クリスチャンも自ら輝く義の太陽を反射するようになるであろう。」

美しい引用文ではないだろうか？ 義の太陽から輝き出る光を反射するとは、何という特権であろうか！

「主を知るために」という本の 341 頁には、次のような助言がある：

「すべての光の源であられるお方からの照明を、確実に受けなさい。彼が全天の偉大な中心的光であられ、世の光であられる。」

この美しい勧告が我々一人ひとりの内に成就されることを願うものである。クリスチャン品性という気高い威厳が太陽のように輝き出て、キリストのみ顔からの光線が、キリストの純潔に至るまで自らを清くした者たちの上に反映されるのである。

「義の太陽が上ったことを常に覚えていなさい。我らの義であられるキリストが、我々を明るく照らしておられる」7BC932。

親愛なる皆様、キリストがこの事をなさるのは、我々を愛しておられるからである。

更にバイブル・コメンタリー6 巻 1118 頁を読みたい：

「キリストは、『教会を愛してそのためにご自身をささげられた』。教会は彼の血によって買い取られた。神の御子が七つの燭台の間を歩いているのが見られた。イエスご自身が、これらの燃えているランプに油を補給なさるのである。その炎を点じられるのは彼である。『この言葉に命があった。そしてこの命は人の光であった』」。

どの燭台も教会も自分で輝くのではない。キリストから、その光のすべてが発せられている。

再び、セレクトッド・メッセージ2 巻の 249 頁において、次のように約束されている：

「試練は厳しいものかもしれないが、一瞬一瞬イエスを見つめなさい。苦闘するためではなく、彼の愛の内に安んじるために、彼はあなたのことを気にかけて下さっているのである。試練が押し迫れば迫るほど、希望が更に強まることを我々は知っている。義の太陽の光線が、そのいやす力をもってあなたの心を照らすであろう。雲のかなたにある輝き、すなわち義の太陽の光を見なさい」。

証を無効にする

さて、これらの輝かしい真理を前にして、我々は教会に与えられてきた損害についてよりよい理解を得ることができる。それは、誤解または様々な方法を通して、エレン・ホワイトの書き物が聖書よりも劣った光として格下げされてきているということである。証の書が教会員によって尊重され、研究される時、神の教会にとってそれはものすごい祝福、励みとなることを、サタンは理解している。この誤解こそ、残りの教会に対する神の使者の職務を傷つけようとする、サタンの一手段である。それはついに多くの人たちの生涯において、彼女の書き物を無効にするためなのである。

なぜなら、もしもサタンがこの方法によって、または暗に預言の霊を格下げすることができ、そうすることで証の書の本棚の上でほこりだらけにしておくことができるなら、神の民が彼の最後の欺瞞を見破ることはないだろうということを、彼は知っているからである。これらの最終欺瞞を、預言の霊は明確に指摘してくれているだけでなく、これを回避する方法をも我々に教えているのである。できることならサタンは我々全員を滅ぼそうともくろんでいることを、決して忘れないで頂きたい。

セレクトッド・メッセージ1 巻5 1 頁からの引用文を注意深く考慮していただきたい：

「サタンの最後の惑わしは、神の霊の証を影響のないものにする事です。」『預言(英訳、幻)がなければ、民はわがままにふるまう(英訳、民は滅ぶ)』(箴言 27:18)。サタンは巧みにいろいろな方法で、種々の働きを通して神の残りの民の、真の証に対する確信を揺るがそうとして働くでしょう」。

友よ、最終時代の小さな光を軽んじることがないように。あるいはエレン・ホワイトの書き物を、神からの下等な光と見なすことがないようにしようではないか。

ここで正直に申し上げる。60年にわたり聖職にたずさわってきたが、セブンスデー・アドベンチスト教会での説教と伝道用に作製したすべてのテープの中で、私は常に聖書と証の書の両方を用いてきた。どちらも、同じ権威の源、すなわち聖霊に起因すると信じてきたからである。

もう一つの重要な考察：

初めに、キリストがこの世界を創造なさったとき、彼はこの形なくむなしの地にご自身のいやしの光を据えられた。「神は『光あれ』と言われた。すると光があった。．．．夕となり、また朝となった。第一日である」(創世記1:3,5)。その第一日には、太陽からの光も、月からの光もなかった。太陽と月が創造されたのは、第四日のことであった。それでも光はあった。その光は何ものであったのか？ その光はまさに、創造主なるイエスご自身であった。そして新しくされた地において、新エルサレムでは、太陽からの光も月からの光も必要でなくなる時がやってくる。黙示録21:23を読んでみよう：

「都は、日や月がそれを照す必要がない。神の栄光が都を明るくし、小羊が都のあかりだからである」

イエスは過去においても、現在も、また未来においても義の太陽であられる。我らの光である創造主は永遠のお方である！ 何という救い主であろう。御名

を賛美せよ！

主の御名においてあなたに訴えたい。キリストにある勝利の絶対的確信を抱きつつ、来るべき危機に直面しようではないか。なぜなら我々は、預言の霊と聖書を、我々を救うことのできる唯一のお方、大きな光、すなわち義の太陽であられるイエス・キリストへと導く、小さな光として受けとめているからである。

次号においては、しばしば文脈から外れて引用され、誤用されている預言の霊からの第二番目の一節を取り上げ、吟味しようと思う。神の民に関する限り、破壊的結果をもたらしかねない問題である。



「主がエレン・ホワイトを通して語られ、メッセージを与えられたことを信じるすべての者は、最後の時代にやってくる多くの欺瞞から安全に守られるであろう」3SM84。

「神の民の証の書に対する信仰を弱めさせることが、サタンの計画である。次に我々の信仰の重要点、我々の立場を明らかにする柱(複数)に関する懐疑が続く。それから聖書に関する疑いが続き、そして破滅に降下していく。かつて信じられてきた証が疑われ、捨てられると、サタンはそこでとどまらないことを知っている。彼は努力を二倍にして公然と反逆を展開し、それはいやしがたいものとなり、破滅に終わるのである。」4T211。

その時歴史は動いた！

2001年9月11日の大惨事は世界を新たな方向に向けた。

なぜそれは起きたのか？ 真相は何であったのか？

まさかとあなたは思うだろう。



中東の国際テロ組織よりさらに恐ろしい隠れたテロリスト集団。内部からアメリカを崩壊しようと狙って働いている。アブラハム・リンカーンの暗殺、タイタニック号の沈没、第一次世界大戦、第二次世界大戦、ジョン・F・ケネディ大統領の暗殺、ウェイコ市の大虐殺、オクラホマ市の爆撃、ニューヨークの世界貿易センター爆破はみなこの秘密テロリスト集団—イエズス会のしわざだと言いつける人がいる。世界最大のテロリストであり「法王教の全闘士中最も残酷で無法で強力なイエズス会」(大争闘上 293)の真相を暴く。「秘密のテロリスト集団」の第 11 章を紹介しよう。

「秘密のテロリスト集団」ビル・ヒュージ著、安嶋巖訳より 第十一章 世界貿易センターの襲撃

2001年9月11日の世界貿易センターの話は、その日に端を発したものではありません。始まったのは、第一次世界大戦直後からです。戦後、イエズス会会員エドワード・マンデル・ハウスとウードロウ・ウィルソンが、国際連盟を創設しました。合衆国の上院議員ヘンリー・ギャボット・ロッジ三世が、アメリカを連盟不参加とすると、イエズス会は、激怒しました。このようなことは、再び決して起こしてはならないことでした。そこで、1921年に、下院の影響のもとに「外交問題評議会」(CFR)と呼ばれる組織が、合衆国に創られたのです。

この組織は、権力者や富豪や有力者にとって魅力あるものでした。名簿の中に政治家やメディアの経営者や大企業の実業家が、連なっていました。CFRの究極の目標は、すべての国境を取り除き、一つの世界統治秩序を設立することでした。16年間、CFRの会員であったチェスター・ワード提督は、下記のように述べました。

「このエリート集団の中で最も有力な派閥は、共通した一つの目的—合衆国という国家的独立の主権を、取り除きたいとの願望を持っている。」
バリー・ゴールドウォーター著、(弁解の余地無く) ウィリアム・モロウ社、p. 278。

イエズス会は、アメリカとこの国が主張するあらゆる事を常に嫌っていました。彼らは、この国を破壊するために、不断に働いています。

CFRの最大の目的は、アメリカの主権と憲法の自由の破壊でした。この目的を達成するために、共和党と民主党の二大政党を統御することと中央銀行である連邦準備銀行(FRB)を創設することでした。

「新しい大統領が就任すると、人事の大移動があ

るが、政策には変更はない。例えば、共和党のニクソン時代は、CFRのメンバーで、ネルソン・ロックフェラーが後援しているヘンリー・キッシンジャーが国務長官だった。次に民主党のジミー・カーターが選出されると、キッシンジャーに代わって、CFRのメンバーで、デビッド・ロックフェラー子分のジビニュー・プレジンスキーが取って代わった。」同書、p 279。

イエズス会は、ウィーンとベロナとチェリでの悪意に満ちた法王制会議の目的を遂行することにおいて大成功をおさめてきました。イエズス会は、CFRの援助を受けて、政界、法曹界、実業界、金融界、メディア界、そして宗教界の最上層部を支配しています。彼らの計画は予定通りに進んでいます。

イエズス会が、第一次世界大戦後アメリカを国際連盟に加盟させることに失敗したときに、CFRを創設しました。CFRは、第二次世界大戦後に世界政府を創設しようとするイエズス会の第二の試みを、アメリカ国民に、受け入れさせる準備段階として学校(小中高)と大学とメディアを利用することを直ちに始めました。第二次世界大戦が終結するまでに、アメリカ国民は、良く教化されたので、国際連合を受け入れて、加盟しました。

イエズス会の創設したCFRは、アメリカの共和制の存続には、とても危険です。チェスター・ワードやケネディ大統領のような少数の愛国者は、イエズス会の悪意に満ちた計画を拒否し、彼らが議会に提出する議案と戦いました。ケネディは、生命をかけて、イエズス会への不服従を示しました。イエズス会会員かそれともイエズス会の子分であった最近のCFRのメンバーの中に、ドワイト・D. アイゼンハワー、リチャード・ニクソン、アドライ・ステ

イーブンソン、ヒューバート・ハンフリー、ジョーン・マックガヴァンがいます。イエズス会のCFRの現在のメンバーには、連邦準備銀行(FRB)総裁のアラン・グリーンズパン、国会議員では、ニュート・ギングリッチとリチャード・ゲファルト、大統領では、ハーバート・ウォーカー・ブッシュとその息子ジョン・ウォーカー・ブッシュ、副大統領のディック・チェイニー、国務長官のコリン・パウエル、最高裁判所判事のサンドラ・デイ・オコンナーとジョセフ・リーベルマンとジョン・チャフィー(チャフィーは、ご存知の通りウェーコ事件後に銃規制法を提出した人物)がいます。勿論、ビル・クリントンもCFRのメンバーです。

イエズス会/CFRの支配のもとにある大企業としては、フォード、ボーイング、ペプシコーラ、ヘインズ、ロッキード、マーチン、タイム・ワーナー、シェブロンがあります。メディア関係で、イエズス会によって牛耳られている機関は、NBC、CBS、ニューヨーク・タイムス、ワシントン・ポスト、ニューズウィーク、タイムです。これら全ての会社は、アメリカを破壊しようとしているイエズス会の計画を推進しています。イエズス会の計画を促進している報道機関のトップには、トム・ブロカウ、バーバラ・ウォルターズ、デビッド・ブリンクレイ、ジョン・チャンセラー、カタリン・グラハム、テッド・コペルがいます。彼らは皆、CFRのメンバーです。

ニューヨーク・タイムスの編集長で、編集にかけては最古参であるジョン・スウィントンは、最も大胆な告白をしました。1953年に、ニューヨーク・プレス・クラブで、彼は下記のように言明しました。

「世界歴史の今日にいたっては(現代で)、アメリカにおいて、アメリカ独自の新聞というようなものはない。諸君も、そのことを知っているし、私も知っている。今や、諸君の中には持論をあえて正直に書く者はいない。もし書いたならば、それは、新聞には、決して載らないことを、諸君は、あらかじめ知っているからである。私は、関係している新聞に自分の正直な意見を載せないように毎週支払いを受けているのである。諸君もそうであろう。正直な所信を披瀝するという愚かなことをすれば、たちまち諸君は職を追われてしまうのだ。もし、私が正直な意見をウチの新聞に載せたなら、24時間以内に失職してしまう。ジャーナリストの仕事は、真理を破壊すること、徹底的に(すげすけと)うそをつくこと、歪めること、中傷すること、マモン(富の神)の足元にひれふすこと、日毎のパンのために自分の国と民族とを売ることである。諸君もそのことを知っているし、私

も知っている。独自の新聞に乾杯することは、何とおろかなことか。われわれは、舞台の背後にいる金持ちたちの道具であり、器である。われわれは、踊るピエロのようなものである。金持ちたちがヴァイオリンを弾き、われわれは踊る。われわれの才能、われわれの可能性、そして、われわれの人生は、全く他の人々の所有物なのだ。われわれは、知的娼婦である。」(多様な寄稿者、AU. S. Police Action: Operation Vampire Killer, The American Citizens and Laumen Association), pp. 18, 19。(斜体字は追加)。

スウィントンは、メディアが、金持ちの支配のもとにあることを、とてもよく説明しました。アメリカの最も富んでいる人たちは、イエズス会の会員かイエズス会の支配のもとにあることを、前に示しました。イエズス会は、新聞や雑誌やその他のメディアによって、われわれに信じ込ませたいことを正確に伝達しています。イエズス会の最大の努力の一つは、世界中の人々に、法王が偉大な平和の人であると信じさせることです。だが、実際には、法王とイエズス会は、中世暗黒時代のように、法王を世界の至上の独裁者としての地位を確立しようと、絶えず働いているのです。彼らがこのことを成し遂げるときに、暗黒時代の法王の権力による恐ろしい迫害が、再び始まることでしょう。アメリカ国民は、合衆国憲法の定める市民の自由と自分の国を放棄するように欺かれているのです。私たちが、今日、目撃している悲劇は、テロのせいにはされていることです。しかし、テロリストの組織の中にイエズス会が徐々に入り込み、背後でその組織を支配しているのです。これは、テロによる悲劇に、法王権の足跡を隠すのに大変効果的です。

さて、2001年9月11日の世界貿易センターの破壊に思いを向けましょう。世界貿易センターの全壊と共に数千人の罪も無い人々が亡くなりました。アメリカとその経済に及ぼしたマイナスの衝撃は、大変なものでした。その降下によって多数の事業が破産してしまいました。

このような攻撃が、将来再び起こるかもしれないので、それに対して防御するために、合衆国政府は、この残虐行為の犯人を見つけるために、一縷の望みをいだいてアフガニスタンに侵攻しました。しかし、テロに対するこの戦争で、政府の最大の目的は、アメリカ市民の権利と自由を奪うことでした。秘められたある理由のために、もしも、アメリカ市民の市民権が取り除かれたならば、テロはもう起こらないと考えられています。アメリカ国民に対する権利剥

奪の攻撃は、ホワイトハウス、司法省、議会、そしてマスコミから来たのです。連邦政府の閣僚は、合衆国憲法を擁護し、従うことを厳粛に誓約します。だが、その誓いは、偽りであることが示されてきました。彼らは、破壊的な法案や大統領命令を通過させるときに、憲法を全く完全に無視します。

ジョージ・ブッシュは、大統領になるや否や、イエズス会の息のかかった議案の通過に努めてきました。大統領就任後二ヶ月して、ローマの枢機卿たちに囲まれて、大統領は首都ワシントンの文化センターを、この共和国にとって最大の敵ローマ法王に、献納しました。ブッシュは、ここアメリカで、法王の言葉や教えを実施するつもりであると宣言しました。

「真に偉大な人物の一人である法王ヨハネ・パウロ二世に栄誉を与える最良の方法は、法王の教えを厳粛に受け、法王の言葉に耳を傾け、その言葉と教えをここアメリカで実践することである。」パトリシア ザポア著、カトリック ニュース サービス、2001年3月24日。

ヨハネ・パウロ2世の言葉と教えとは、プロテスタントを滅ぼすこと、合衆国憲法を無きものとする、そして、普遍的帝王として、法王の王座を回復することを意味します。ジョージ・ブッシュは、自らの言葉で、アメリカを滅ぼそうとするイエズス会の計画を実行しているのです。

「1960年に、ジョン・ケネディは、法王に従わないことをプロテスタントの牧師たちに保証するために、ワシントンからテキサスに出かけていった。一方、2001年にジョージ・ブッシュは、法王に従うことをカトリックの司教たちに保証するために、テキサスからワシントンにやってきた。」(ワシントン タイムス)、2001年4月16日。

ワシントンで命令をしているのは、だれでしょうか。もしそれが合衆国大統領であると考えれば、我々は自分自身を欺いているのです。

「法王は、世界の支配者である。皇帝も、王も、君公も、世界の大統領(首相)もすべて、法王の侍者のようなものである。」D. S. フェラン著、(西方の証者)、1912年7月27日。

イエズス会のプログラムを推進しているのは、ブッシュとその仲間の侍者たちであるとするならば、驚かないでいられるでしょうか。ブッシュが、憲法の自由を破壊する大統領命令を発するとすれば、驚

かないでいられますか。議会が、憲法の自由を破壊する法律を通過させるとすれば、驚かないでいられますか。

これは驚くべき情報であります。合衆国政府の最上層部の人たち、実業、金融の最上層部の人たち、そして学校、大学、メディアの最上層部の人たちは皆、自分たちが、アメリカ国民であると言っています。皆、アメリカの向上、発展のために働いていると言っています。皆、憲法を守るために努めていると主張しています。しかし、実際には、この共和国の最も無慈悲な敵であるイエズス会の支配のもとにあるのです。見掛けは愛国的で宗教的ですが、ひそかにアメリカを破滅に導いているのです。最も悪意に満ちた敵であるローマのイエズス会によって、欺瞞が実行されているのです。

「教会の驚くべき力を感じさせるのは、ここアメリカにおいてである。この指示(イエズス会から出ている)によって政治家たちは、自国の利益のためでなくて、背後で統御している教会の利益のために行動するように強いられているのである。」M. F. クサク、(闇の法王、マーシャル ラッセル社)、p. 106。

世界貿易センターの破壊の後、どのような事態が起きたのでしょうか。センターが破壊された翌日オランダ センチネル紙が下記のように書きました。

「テロ防止のためにしなければならないたくさんの仕事がある、と専門家たちは言う。そのなかには、更に多くの財政支出や立案がある。恐らく、主要な施設の強度をたかめることや関税をもっと引き上げること、いくつかの個人の自由を制限することがあるであろう。」(より強固な治安は、より少ない自由の意味) オントリオ センチネル、9月12日水曜日、(斜体は追加)。

『どこにいるか不確かな隠れた敵に対する新しい戦争に直面するときに、合衆国がテロの危害から自衛するために、自由を犠牲にする誘惑が強くなるのである。

われわれにとって危険なことは、最後には、治安も、自由もなくなる結果に終わってしまうことである。

アメリカ国民が非常に価値があるものとしている言論やプライバシーの憲法による保護は、個人の自由と国家の治安との間のバランスを反映している。天秤の支柱をどの辺に置くかは、アメリカの治安に対する明らかな脅威によって、直接、影響を受けると歴史が教える。…

われわれは、国家の治安に対する真の脅威に直面している。憲法の特質を危うくしたり、われわれの力の源である自由を損なうことなく、テロの脅威に対抗することが、われわれの挑戦である。』USA Today, 2001年9月13日。(斜体は追加)

自由かそれとも治安か。テロに対抗するための方策は、ある程度の個人の自由の喪失を意味すると言っても差し支えない。」オーランド センチネル、9月12日水曜日。(斜体は追加)

9月12日のオーランド・センチネル紙の読者欄に、「テロと戦うために、どんな個人の自由を捨てなければならないのでしょうか。」という質問が掲載されました。翌日、ある人が、投書して言いました。「私は、自分自身と兄弟姉妹の更なる幸せのために、何かを捨てなければならないならば、それを捨てるのに何の問題も感じません」。この人物は、政府が、権力を益々強化するときに、自由や安全が、それに見合っただけ減少していくことを認識していません。この人物は、政府が権力を一手に掌握すると、だれもが安全でなくなり、流血の迫害がその結果となることを、認識していません。ウェーゴの事件を思い出して下さい。

世界貿易センターの悲劇の主要な目的は、アメリカ市民に喜んで自由を捨てさせることです。世界貿易センターへの攻撃は、必要でした。なぜならば、オクラホマの爆破は、待望久しいいわゆる「テロ防止法」を議会で通過させるのに十分な恐怖を、アメリカ市民が感じるまでに至っていなかったからです。

「ヴァージニア・スローンの認識によれば、こうである。即ち、もしも、テロリストたちが、アメリカ国民の自由を攻撃しようとねらっているならば、どこかを見つけなければならなかった。...

市民の自由論者たちは、身分証明カードの発行の更新を国に要求する。...

それは、アメリカ国民全ての顔写真を収集して、保管することを意味する。このことは、市民の自由論者たちが、恐れることであるが、政府に個人の居所を突き止めることを赦すことになるであろう。もしも、防犯システムが町中に設置されたならば、あなたは、電車に乗っているときも、現金支払機のところにいるときも、店か職場に入るときも、監視カメラによって「検問」され得ることになる。」(タイム マガジン)、2001年9月24日。

写真と本人とを照らし合わせることで、恐ろしい

ことの一つは、周知の通り、それが不確実であることです。機械が誤認すれば、その人はテロリストと認定されるかも知れないのです。

「個人の権利の忠実な擁護者のうち最も有名な『アメリカ市民自由連合(ACLU)』は、今のところ、この件については、沈黙を守っている。この組織は、先週、火曜日の悲劇から生ずる結果(自由の制限)に関しては、公然と推測することを職員たちに禁じた。その代わりに、ACLUは、アメリカの地で破壊的な攻撃を行ったテロリストたちを追跡するときに、アメリカが大事にしている自由の原則を擁護し続けるように、国の指導者たちを説得する簡単な声明文を出した。

安全を優先する余り、大切に持ち続けていた自由が、踏みにじられはしないかと、自由論者たちはひそかに心配している。その根拠として、自由に関する法案が提出され、政府が検討するまでだったが、1995年のオクラホマ市の爆破事件の結果として、その法案が拒否された。...

1995年4月のロサンゼルス タイムスの爆破事件直後の世論調査で、回答した人の49%は一般市民の自由のいくつかを放棄することはやむをえないとし、43%は同意しなかった。事件後11ヶ月してから行った2回目の世論調査では、ほんの30%が、市民の自由を犠牲にしなければならないと回答し、65%はその必要なしとした。」オーランド・センチネル、2001年9月13日。

イエズス会の自由制限法案の提案と呼応して市民の自由のある部分を放棄することを提案するマスコミの論説や声明が、ひんぱんに掲載されました。2001年11月26日にブッシュは、「2001年アメリカ合衆国愛国者法」に署名しました。この法律は、9-11の悲劇の5日後に議会に提出され、世界貿易センターが破壊された丁度6週間後に議会を通過しました。これは、本当に驚くべきことです。法案というものが、立案され、法制化され、議論が戦わされ、そして、こんなに速く通過することは、一般的にはあり得ません。彼らは、あの悲劇が起こる前に、すでにこの法案を法制化してしまっていたということがお分かりでしょう。

「この法案は、電話の盗聴、報道の統制、インターネットの利用とメールや表計算のやりとりの追跡、そして、合衆国の国境の検問ができて、連邦政府の能力を増強するものである。」(破竹の勢いで進んだテロ対策の新法にブッシュ調印、ロイターニュース・サービス)、2001年11月26日。

アメリカ市民自由連合（ACLU）のラウラ・マーフィーは論説で「国民が、本当に心配していることだが、合衆国憲法の権利章典とそれを具体化する価値基準を、政府と議会がないがしろにするのを、国民としてわれわれは、見過ごすことができない」と述べています。テロと戦うという名目のもとに、憲法の自由を、政府ができるだけ速く取り除こうとしています。これは、物理的に引き起こされる悲劇よりも更に悪くなる恐ろしい迫害が、合衆国に起こるように導くでしょう。

「テロ対策法に基づく政府の実施状況に、うろたえた国会議員たちが、この件で、弁護士会会長ジョン・アッシュクロフトに質問しようとしている。

〔幾人かの国会議員〕は、*市民の自由を侵害する点*において、もはや行き過ぎてしまっていると言っている。」USA Today、2001年11月26日。（斜体は追加）

上記の同じ日の同じ新聞に、二人の子どもが、クリスマスツリーを飾っている漫画が出ていました。一人の子どもが、歌っています。「あなたが眠っているときに、神様は、あなたをご覧になっている。あなたが目覚めているときに、神様は、あなたをご存知です。あなたが、良い子でも悪い子でも、神様はご存知です。．．．」。するともう一人の子どもが言います。「アッシュクロフト弁護士会会長さんについても、もう充分ご存知です！」

アメリカでは、ここ8年以内に、三つの恐ろしい悲劇が起きました。すなわち、ウェーコとオクラホマ市と世界貿易センターです。三事件とも、政府の問題解決策は、政府の権力強化と憲法の保障する自由の減少です。8年という短い期間に、人間によって創られた最も偉大な文書である合衆国憲法が、剥奪されるという極めて重大な事実と直面しています。アメリカで合衆国憲法の自由に対する狡猾な（陰險な）戦いが、猛威をふるっています。世界貿易センターの破壊の次には、この憲法の自由に対する戦いが、政治家とマスコミの焦点となってきたことは確実です。忠実なアメリカ国民であると言いながら、議会とメディアにいるイエズス会の傀儡（かいらい）（=操り人形）たちは、ほとんど反対も無く、アメリカを破壊する計画を実行しようとしています。

覚えていただきたい。イエズス会は、アメリカ合衆国憲法とそれが表象する全てのことに対して、徹底的に敵意を持っているのです。チャールス・チニクイーは、下記のように言っています。

「私が、司祭に任命される大分前に、我が教会は、この共和国の最も容赦ない敵であったことを、私は知っていた。私の大学教授たちは…皆、異口同音に、ローマ教会の諸原則と法律は、アメリカ合衆国憲法を礎石とする諸原則に、絶対的に対立するものであるということに私に言っていた」
チャールス・チニクイー著、（ローマ教会における50年）、チック出版、p. 283。

注：チニクイーは誠実な神父であり、リンカーンの親父となった。彼はイエズス会がリンカーンの暗殺をはかっていることを告げた。



チニクイーの二つの原則の違いの比較に気を付けてください。

第1. 合衆国憲法の最も神聖な原則では、すべての市民は法のもとに平等である。しかし、ローマ教会の基本原則は、平等の否定である。

第2. 良心の自由は、全ての市民が、どんな犠牲を払っても保持しなければならない非常に神聖な原則であると合衆国によって宣言されている。しかし、良心の自由は、最も不敬虔で汚れたしかも邪悪なものであり、全ての善良なカトリック教徒は、どんなに犠牲を払っても、忌み嫌い、無効にしなければならないと、歴代の法王とローマの宗教会議によって、宣言されている。

第3. アメリカ合衆国憲法は、聖職者、即ち、教会の権力からの市民の完全な独立を保障している。しかし、ローマ教会は、このような独立は、神に対する不信心であり、反逆であると宣言する。

第4. アメリカ合衆国憲法は、全ての人が、良心の命ずるままに神に仕える自由を持っているとうたっている。しかし、ローマ教会は宣言する。如何なる人間もこのような権利を持っていない。法王だけが、人の信仰となすべき業についての知識を持ち、またその決定権を持つ。

第5. 合衆国憲法は、如何なる者も、宗教が自分と違っているからといって、他の人を罰する権利を否定する。しかし、ローマ教会は、法王と信仰が違っている者に対して、財産没収か又は死刑で罰する権利を持つ。

第6. 合衆国は、広大な領土全体に学校を建てて、知識を学び、善良で有能な市民となるために、子どもたちを学校に送るようにと全国民に勧めている。

しかし、ローマ教会は、合衆国が建てた全ての学校を公然と呪い、ローマ教会の子どもたちが、そのような学校に出席することを禁止し、これを犯せば、この世では破門、あの世では地獄の苦痛を味わうことになる。

第7. 合衆国憲法は、国民がすべての市民権の本源であるという原則に基づいている。しかし、ローマ教会は、この原則は不敬で、異端的であると、何回も何回も宣言している。全ての政府は、法王のみ正統で、無謬の源であり、法の解釈者であるとする、カトリックの信仰の基礎に基かななければならない。一同書、p. 284。

合衆国の大統領が、法王に従うつもりであるとワシントンタイムズ紙で宣言したのを、私たちは知りました。もしもそうであれば、大統領は、合衆国憲法を無効にするに違いありません。世界貿易センターの破壊の結果としてブッシュは、厳密に法王の提案に従うことは明らかです。

「ローマ教会の諸原則が、アメリカで優勢であるとなると、合衆国憲法が、力を失うことは、明らかである。その二つは共存し得ないのである。ローマ教会の諸原則が、合衆国政府と世界の全ての民主的政府の基本理論に対して公然且つ直接的に対立している。」リチャード トンプソン著、(ローマ教会の50年の中で引用された法王制と市民権)、p. 285。

「カトリック勢力が、アメリカの人口の過半数に達すると、宗教の自由は、終りを告げる。」(セントルイス司教の公報誌「谷間の牧人」、1851年11月23日。

世界貿易センターの破壊とオクラホマ市のムーラー・ビルディングの破壊は、アメリカに恐怖を創り出す特別な目的のために計画された事件でした。それは、アメリカ国民が、恐怖で、憲法の自由を手放すようにさせるためでした。イエズス会の計画は、とてもうまくいっています。イエズス会の支配のもとにある政治家、学校(小中高)、大学、マスコミ、そして大企業とともに、アメリカは、内部の敵によって急速に破られています。

アフガニスタンにいるイスラム過激派と戦うために米軍が、準備されたときに、「政府は、テロに対する**十字軍**を用意している」と言った大統領の言葉を、USA Today紙が引用しました。(USA Today), 2001年9月17日。

十字軍? 十字軍と言えば、中世暗黒時代に、エ

ルサレムを、法王に譲渡することを拒否したイスラム教徒に対するカトリックの聖戦のことでした。ジョージ・ブッシュは、十字軍という言葉を使うことに、どんな意味を持たせたのでしょうか。前イエズス会の司祭アルベルト・リベラが、十字軍戦士シリーズの中で、バチカンが、クリスチャンとユダヤ人を滅ぼし、ローマカトリックを守り、法王がエルサレムを手に入れるためにイスラム教をバチカンが創設したことを明らかにしました。イスラム教が、成立してから数百年の間、イスラム教は、バチカンの目的に添っていました。その後、法王にエルサレムを譲り渡すときになってイスラム軍を指揮する強力な將軍たちが現れて、軍事力を如実に示してエルサレムの明け渡しを拒否しました。このような訳で、法王権力は、イスラム軍をエルサレムから追い払い、エルサレムに法王の玉座を設置するために、十字軍を創設しました。

では、なぜ今、十字軍なのでしょう。アメリカとイスラム過激派は、なぜ戦っているのでしょうか。このような情勢から、イエズス会が成し遂げようと願っている三つのことがあります。**第一に**、私たちが、調べてきたように、合衆国憲法は、数百年もの間、イエズス会にとっては、^{のどもと}喉元に刺さった一本の「とげ」でありました。イエズス会は、合衆国憲法を完全に無効にしたいのです。アメリカに恐怖をつくり出し続けることによって、イエズス会は、やがて、彼らの究極の目標に達することを望んでいます。**第二に**、法王が望むときに、エルサレムを譲渡しないイスラム過激派の不服従に対して懲らしめたいのです。**第三に**、中東における戦争は、世界の厭戦的(戦争がいやになること)になった多くの人たちが、もう戦争を止めて平和的に解決を計るようにと叫ぶまで続くでしょう。その時が来ると、エルサレムに鎮座しますお方こそ、長く待ち焦がれた平和をもたらす唯一の調停者と考えられますが、そのお方とはどなたであると思いますか。その騒然とした地域の指導者として、法王に就任していただくという考えに、マスコミの操作でだれもが、慣らされてしまうので、それが、唯一の答えであるかのように、思えるのです。その結果、法王がエルサレムに君臨することになり、イエズス会の使命が達成されるのです。

(注: ニューヨーク同時多発テロ事件後、対テロ戦争のことを、ブッシュ大統領は「新しい形の戦争」とか「新しいパール・ハーバー」と呼んだ。角間隆氏は対イラク戦争のことを「第三のパール・ハーバー」

と呼んでいる。第一は、アメリカ国民を戦争に奮起させるための、ルーズベルト大統領の「日本軍によるハワイ真珠湾奇襲」であった。ルーズベルトは一挙に国民の人気を回復した。第二のパール・ハーバーは対テロリズム戦争の呼びかけであった。そして対イラク戦争は第三パール・ハーバーと言うのだ。(編集者の注)

オサマ・ビン・ラディンについて考えましょう。ビン・ラディンは、1980年代のアフガンとソ連との戦いの間、アメリカから援助を受けていました。そして、彼は、1990年代後半のバルカン紛争の間、アメリカと共に戦っていました。圧倒的な情報量が、ビン・ラディンの事業とブッシュ家との関係を示しています。そして、ビン・ラディンは、2000年7月の下旬まで、CIA(米中央情報局)と接触を持っていました。オサマ・ビン・ラディンは、リー・ハーベイ・オスワルドやテモテ・マックベインが、「おとり」であったとまさに同じように「おとり」となったのです。ラディンは、その責めを、実際に受けなければならないところ、すなわち、法王制の中のイエズス会を覆い隠すパスティー(肉・野菜・ジャムなどを中に入れて焼いたパイ)として利用されています。

前CIAのアフガニスタン担当の責任者で、同時にビン・ラディンの情報顧問であったミルト・バーデンが、2001年9月12日にダン・ラザーからインタビューを受けました。そこで、世界貿易センターの大惨事の責任は、ビン・ラディンにあると、バーデンに言ってもらいたかったのです。ところが、彼は、「もしも、当局が、オサマ・ビン・ラディンのような人物を持っていなければ、同じような立場にいる

人物を創り出したでしょう」と述べました。

最近、アメリカ自由ニュースのニュース解説者リック・ウイルスが、ロシア首相ウラジミール・プーチンの経済顧問コリャーギナ博士と会談しました。彼女は、インタビューで、世界を支配している秘密結社、犯罪組織と宗教組織について論じました。彼女は、また、合衆国を倒し、世界政府を樹立しようと努めている陰の政府があると断言しました。2001年7月に、モスクワで、彼女は、合衆国が攻撃されるであろうと、警告しました。彼女はアメリカ国民は、起ころうとしていることと、それを誰が行ったかについて、目覚めるときにショック状態に陥るでしょうと言いました。「暴力団とマフィアについては、だれでも知っています。また、人々は、秘密結社等々についても以前から知っていました。私は、調査している間に、これらの組織がまとまって結びつこうとする可能性について、注目しはじめました。そして、たった今、暴力団とマフィアと秘密結社が合流して、一つの犯罪的怪物が、出現するということがはっきりと分かりました。」(2001年12月6日の放送)

我々はこの有名なロシアの経済学者の言葉に耳を傾けるでしょうか。一つの世界政府を創設するために、いくつかの秘密結社がこれらの活動の一つにしようとしています。アメリカが、その事実を知ったとき、ショック状態に陥ることでしょう。コリャーギナ博士は、世界貿易センターの破壊を背後で指導し、命令した秘密結社のことをすべて話していました。名指すことこそしませんでした。ローマのイエズス会のことでした。

訴え！ カラー印刷機の必要

サンライズで出版するアンカーや本に、どうにかカラーで読者に写真を提供できないかと思っています。白黒写真では迫力が落ちます。今回のアンカーの写真もそうです。カラー印刷機とはいっても、今は非常に便利な簡易印刷機が出ております。

最後の働きは急を要するものであります。三重の使命という世界最終時代の使命がセブンスデー・アドベンチストに託されています。今後、我が教会員ばかりでなく、警告の福音を聞かなければならない無数の人々のためにできるだけ魅力的な印刷物が必要です。

読者で情報お持ちの方がおられましたらご連絡ください。

イエズス会の目的はローマ法王権の復興！

イエズス会の策動（大争闘上 293—294）

このとき、改革事業に一大危機が訪れた。ジュネーブに対して法王の破門が宣言され、強国がこぞってジュネーブを威嚇した。これまでしばしば国王や皇帝を屈服させた強力な教権に、この小さい都市がどうして対抗することができようか。世界の偉大な征服者たちの軍隊に、どうして対抗できようか。

プロテスタント主義は、全キリスト教国において、恐るべき敵に脅かされた。改革事業の最初の勝利は過ぎ、ローマはその全滅を期して新たな勢力を奮い起こした。このとき、**法王教の全闘士中、最も残酷で無法で強力なイエズス会**が創設された。彼らは、世俗のきずなや人間関係から切り離され、人情も理性も良心もいっさいを無視して、彼らの会以外のどんな規則もきずなも認めず、ただ、その権力を伸張することだけを義務とした。キリストの福音は、その信者たちに、危険を冒し、苦難に耐え、寒さ、飢え、労苦、貧困にもめげず、真理の旗をかかげ、拷問も投獄も火刑も恐れない力を与えてきた。この勢力に対抗するために、イエズス会は、その会員を狂信的にさせ、同様の危険に耐えるように、またあらゆる欺瞞の武器をもって真理の力に対抗するようにさせた。彼らは、どんな犯罪を犯しても罪にならず、どんな欺瞞を行なってもかまわず、どんな偽装もわけなくできた。彼らは、一生の間貧困と質素な生活を送ることを誓ったが、その目的とするところは、富と権力の獲得であり、プロテスタント主義をくつがえし、法王至上権を復興することであった。

彼らは、会の会員として活動するときは聖衣をまとい、牢獄や病院を訪ねて病人や貧者に奉仕し、世俗を捨てたことを公言し、よい働きをしながら巡回されたイエスの清い名を帯びていた。しかし、この潔白な外観のかげに、しばしば、極悪非道な目的が隠されていた。目的は手段を正当化するというのが、会の基本原則であった。この規定によって、虚偽、盗み、偽証、暗殺などは、教会のために役立つならば許されるだけでなく、賞賛すべきものであった。さまざまな偽装のもとに、イエズス会の会員たちは、国政にまで手を伸ばし、国王の顧問の地位について、国家の政策をまとめた。また、人々の様子を探るために、そのしもべとなった。彼らは、王侯、貴族の子弟のための大学を設立し、一般の国民のための学校を建てた。そして、プロテスタントの親の子供たちは、カトリックの儀式を守るように影響された。ローマ・カトリックの礼拝の華麗な様子は、心を混乱させ、想像力を眩惑し魅惑した。こうして子供たちは、彼らの父たちが苦難と血によって得た自由を売り渡してしまった。イエズス会は、ヨーロッパに急速にひろがった。そして、彼らの行ったところは、どこでも法王権が勢力を回復した。

大争闘下 321

ローマ教会の計画や運営方式には遠大なものがある。この教会は、再び世界を支配するために、また迫害を復活させるために、またプロテスタントが行なったすべてのことを無効にするために、激しい決定的な戦いの準備として、その感化力を広げ、その勢力を強めようと、あらゆる手段を用いている。カトリック教は至るところに地歩を占めつつある。

※ ローマの狙い

1. 世界支配
2. 迫害復活
3. プロテスタント主義を無効にする

黙示録 13 章、17 章、大争闘下 321 頁によると、世界支配を狙っているのはローマである。神からその権利を与えられていると豪語している。

「…ヨハネ・パウロ 2 世は、最も明確にローマ・カトリック キリスト教の基礎以外に地政学的に可能なシステムを造り得る希望は人類にはないと主張している」この血の鍵、p492。

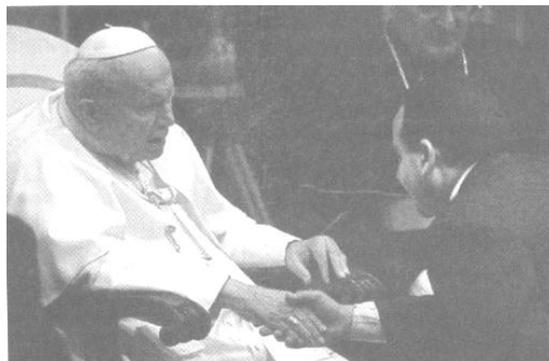
この言葉は、元イエズス会であり、バチカン インサイダー(内幕に明るい人)であるマラカイ・マーチンが言っている事である。今日の世界情勢はまさにその実現を見させようとしているのではないだろうか。

「彼らは心をひとつにしている。そして、自分たちの力と権威とを獣に与える。」黙示録 17:13。

共産主義権力は、ローマの権力に屈した。最後に新世界秩序(世界統一政府)の前に立ちはだかっているのは、イスラム王国である。9 月 11 日以来、イラク、イラン、トルコの代表が反キリスト、ローマ法王の前に謁見を求めてきた。まもなく、ベルリンの壁、東欧共産圏のように、我々はイスラム王国が屈するのを見るであろう。



トルコ大使、オズマン・ドゥラク、外交証書をヨハネ・パウロ 2 世に手渡す。04/2-21



イラク大使、アンバリ・アブジュル・アドミル、ヨハネ・パウロ 2 世に謁見。04/1-12



イラン外相、カマル・ハラジ、ヨハネ・パウロ 2 世に謁見。04/ 2-12



パレスチナ外相、アメッド・キューリ、ヨハネ・パウロ 2 世と密談。04/ 2-12

ローマ・カトリックのイスラムに対する十字軍による制圧も失敗してきた。イスラム パワーはローマに決して屈することはしなかった。しかし、預言によると、全世界—イスラム王国も含めて、ローマの新世界秩序に屈するのである。

「また、龍がその権威を獣に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで言った、『だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか』」黙示録 13:4

どのように、イスラム パワーがローマの新世界秩序の影響に屈するのであろうか。

1. アメリカの権力によって

「わたしはまた、ほかの獣(アメリカ)が地から上って来るのを見た。それには小羊のような角が二つあって、龍のように物を言った。そして、先の獣の持つすべての権力をその前で働かせた。また、地と地に住

む人々に、致命的な傷がいやされた先の獣（ローマ法王教）を拜ませた。また、大いなるしるしを行って、人々の前で火を天から地に降らせることさえした。さらに、先の獣の前で行うのを許されたしるしで、地に住む人々を惑わし、かつ、つるぎの傷を受けてもなお生きている先の獣の像を造ることを、地に住む人々に命じた。」黙示録 13:11-14。

2. 対話、奇跡、偽りバイバル、宗教大連合戦略を通して

「第二バチカン公会議において、カトリックは史上初めて異端のプロテスタント、正教会をはじめユダヤ教、イスラム教、仏教という諸宗教を『神が創ったもの』として認め、それらを排斥することなく幅広い対話の必要性を戦略化した。以前のように宗教はカトリックしか認めないとする考え方からすれば 180 度の大幅な大転換であった。…聖書の民であるユダヤ教、イスラム教に対しては特別の親しみをこめて連合することに決定した。…『あらゆる宗教が神の計画のうちに用意されたものとみる』のである。…『各宗教はそれぞれ光を持っている。たとえ十分に人の心を照らすキリスト、真理と生命であるキリストの光に遠くとも、それを軽蔑したり、それを消そうとしてはならない』」バチカンの秘密 407-408。

アンカーで以前に、ヨハネ・パウロ 2 世がイスラム教徒と一緒にシナイ山巡礼に行ったニュースを伝えた。イスラム教には、聖母マリヤに関する教えもあると言う。第二バチカン公会議以後イスラム教徒との接触が急速に深まっていった。

「カトリック宗教誌(アメリカ)によると、この会談(トリポリ会談)では、イスラム側は両教が共有する一神教の理念と信仰を強調、コーランから特別にイエズスとマリヤに関する部分を引用、キリスト教とコーランの接近を演説した。」同 413。

3. 経済戦略によって

「それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拜まない者をみな殺させた。また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもできないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである。」13:15-17。

日本経済新聞社発行の「宗教から読む国際政治」249 頁にもイスラム諸国の「西側諸国への経済依存」が指摘されている。世界を支配する者は、物、経済を支配する者である。世界一大富豪はローマである。それを曝露する本は幾つも出ている。代表的な著者に欧米では、アプロ・マンハッタン、日本では赤間剛などがいる。

4. 先の獣（ローマ法王教）の「新世界秩序」構築

なぜ、今イラクいじめをアメリカが扇動しているのだろうか。ビル・ヒューズの言葉を思い出す。

「合衆国憲法は、数百年もの間、イエズス会にとっては、^{のどもと}喉元に刺さった一本の「とげ」でありました。イエズス会は、合衆国憲法を完全に無効にしたいのです。アメリカに恐怖をつくり出し続けることによって、イエズス会は、やがて、彼らの究極の目標に達することを望んでいるのです。第二に、法王が望むときに、エルサレムを譲渡しないイスラム過激派の不服従に対して懲らしめたいのです。第三に、中東における戦争は、世界の^{くんとんてき}厭戦的（戦争がいやになること）になった多くの人たちが、もう戦争を止めて平和的に解決を計るようと叫ぶまで続くでしょう。その時が来ると、エルサレムに鎮座ましますお方こそ、長く待ち焦がれた平和をもたらず唯一の調停者と考えられますが、そのお方とはどなたであると思いますか。」

ローマはプロテスタント教会に対しては、宗教戦略—エキュメニカル戦略—で見事に成功している。ローマに使われたプロテスタント・アメリカの破綻は近い。自由の国、アメリカが憲法を変えてローマの休日—聖日、日曜制度を強要する時、プロテスタント・アメリカは「破綻」するであろう。

最終的に宗教団体で新世界秩序に屈しないのは、セブンスデー・アドベンチストである。

ブッシュが法王へ メダルを贈呈

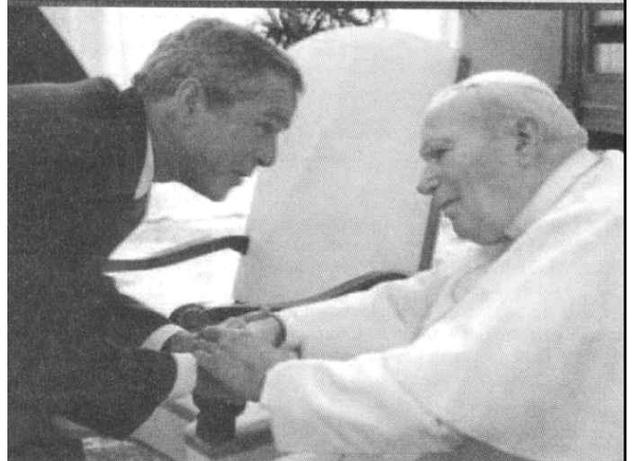
大統領、ヨハネ・パウロ2世に自由のメダルを贈呈した時の所見—イタリア、バチカン

大統領：聖下、ローラ(妻)と私、そして代表団を受け入れてくださり誠に感謝にたえません。あなたを尊敬し、賞賛し、愛してやまない私の国からご挨拶を持ってまいりました。

聖下、私はまた平和とあわれみを広めるために人類の自由と威厳のために働くという私の政府からのメッセージも持ってまいりました。私共は、貴方が主張される自由の強力なシンボルを感謝しています。私共は自由の力こそが社会を変え世界を変えることを認識しています。それ故に、聖下にお会いできて光栄に思います。貴方に対してわが国の感謝と尊敬を表わす最善の方法はアメリカから自由のメダルを贈呈することだと思えます。御差し支えなければ、この儀礼に添えられた表彰お読みいたしたいと思えます：

「献身された神の僕、聖下、ヨハネ・パウロ2世は貧困者、弱者、飢えた者、見捨てられた者たちの擁護者として働いてこられました。彼は、すべての生命と福祉の特別な威厳の擁護をされてきました。彼の信仰と道徳の確信によって、不法と圧制を克服するために恐れぬように励ましを与えてこられました。彼の平和と自由のための原則に立つ姿勢は、幾百という人々に靈感を与え、共産主義と専制政治の打倒を助けてきました。米国合衆国は、ポーランド出身で、ローマの司教となられ、現代の英雄となられた方に榮譽を与えます。」

よって、もし、聖下が我々の自由のメダルを受け入れてくださるなら、私はアメリカ国民を代表して誠に光栄に思います。



2004/6-4、ブッシュ大統領はバチカンでヨハネ・パウロ2世に謁見



2004/6-4、ブッシュ大統領はヨハネ・パウロ2世に米国民最高勲章の自由のメダルを贈呈

「教会の制度と慣習に対して国家の支持を得るために目下米国で進行している運動において、プロテスタントはカトリック教徒の例にならっている。いやそればかりか、彼らは法王制が旧世界において失った至上権を、プロテスタント・アメリカにおいて再び得るための戸を開いているのである。」大争闘下 331

「わが国はプロテスタントと共和政体としての憲法の原則のすべてを放棄し、法王教の偽りと欺瞞の宣伝に道を備えるであろう。」 マラナタ 216

「神の民が自分の良心の命じるままに神を礼拝するために、避難所として備えられた地、全能者の保護が長く与えられていた地、キリストの純粋な宗教の保管所として神が選ばれた地、その国が立法者たちによってプロテスタント主義が放棄され、神の律法を踏みじることにおいて背教ローマの肩を持つであろう。その時、罪の人(不法の者)が現われるであろう。プロテスタントはすべての影響と力を法王側に投げるであろう。」マラナタ 179

ドクターイム、クレンジング・プログラムのために来沖！

- 自動車のオイルチェンジは、古いオイルを出し切って新しいオイルを入れる。人間も老廃物、毒素を排出して体を活性化する必要がある！



プログラム内容

- 健康の八原則の教育
- 果物、野菜の生ジュース、薬草、
- 純粋な水によるクレンジング
- 更に良い食べ方
- ウォーキングの効用
- 心と体の密接な関係の研究
- トータルな健康のアプローチ！
- その他、オイルマッサージ、水治療法、チャコール療法等

病院に通ってもなかなか回復しない。
薬でもよくなるらない。
健康食品を使っているが元気になれない。
本当に健康になりたい人のための
自然を基調とした健康回復法！



プログラムの日程 毎月 2 週間プログラム

プログラムはいつも日曜日のチェックインから始まります。最終日の朝食で解散します。

2004年：9月12日～26日の2週間
12日～19日オリーブクレンジングの前準備
20日～26日まではドクターイムが特別指導

費用：2週間プログラム（ドクターイム来沖の折の値段）
1人部屋 15万円、2人部屋 13万円（一人につき）、家族割引 12万円（一人につき）
付き添い 食事つき一泊3,000円

申し込み期間：プログラム10日前までをお願いします。

申し込み方法：電話かファックスまたは、裏面の申し込み用紙の郵送をお願いします。

予約金：お申し込みの際、予約金として2万円をいただきます。これは後で上記の費用から差し引かれます。
7日前までにキャンセルした場合は予約金の50%が返還されます。

郵便振り込み番号：02080-0-12121 サンライズ・ミニストリー

注：振込用紙の通信欄にクレンジング・プログラムと明記してください。

お問い合わせ先：今帰仁ライフスタイル・センター

電話/Fax：0980-56-2881 電話：0980-56-2783

- **健康講義にはどなたも歓迎します。**

ドクターイムの健康講義 9月20日(月)～24(金) 午後3:00
26日安息日のプログラム
夜 6:30

- **ドクターイムの患者証集—自然療法の効果を証する。**

無料ですので、欲しい方はお問い合わせください。



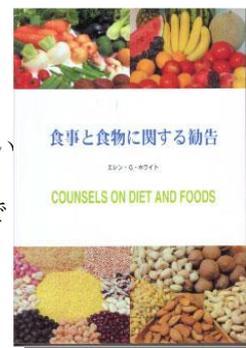
● E.G.ホワイト著 食事と食物に関する勧告

近年になって、やっと病気の原因、健康の秘訣は生活様式だといわれるようになったが、エレン・G・ホワイトが一世紀以上も前にそのことを強調したことに権威者たちも驚いているのである。

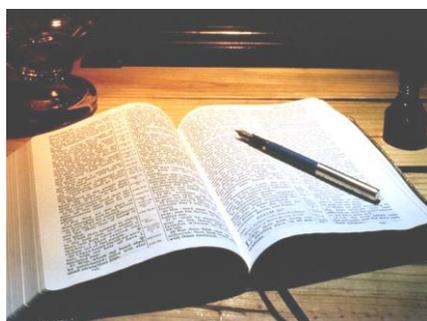
彼女の「食事と食物に関する勧告」はビタミンという言葉さえないときにかかれたものであるが、この書を読む人々に大いに健康と幸福をもたらす。

価格：2900 円(送料別)

サイズ：15cm×21cm



新鮮な空気を吸い、日光にあたり、歩いて緑に浴し、静けさの中で休息し、純粋な軟水、生きた果物、野菜ジュースを飲み、自然な物を単純に食べ、正しい生活習慣を身につけ、神に信頼してストレスを解消。



「愛する者たちよ。わたしたちは、このような約束を与えられているのだから、肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くならうではないか。」2コリント 7:1

発行：サンライズ・ミニストリー
 〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村今泊 1471
 Tel: 0980-56-2783 Fax: 0980-56-2881 Email: contact@srministry.com
 郵便振込み番号：02080-0-12121
 ホームページ： www.srministry.com

